



長崎市立桜馬場中学校

開校67年目を迎える長崎市立桜馬場中学校は、日本最古のアーチ型石橋として有名な「眼鏡橋」が架かる中島川のすぐそばに位置しています。

生徒数は、ピーク時の高度成長期には3,500余名を数え、今でも534名（26年4月）と市内有数の大規模校です。当時の名残をとどめる直線170メートルにもおよぶ長い廊下は、学校名物として地域でも親しまれています。



眼鏡橋

「国際社会に生きるよき日本人の育成」を目指すなか、2013年度は、長崎県金融広報委員会から「金融教育研究校」の委嘱を受け、年間を通じて、さまざまな金融教育を実践しました。

一学期は、全校生徒を対象とした講話会を開催し、携帯電話やインターネット利用に関する金銭的なトラブルの実態と被害に遭わないための対策について学習しました。

二学期は、3年生の社会科で「企業をつくろう」をテーマとした金融教育公開授業が開催され、生産活動のしくみや労働の意義について理解を深めました。続く全体講演会では、人口推移や平均年齢、工場で働く人の時給などのデータを諸外国と比較することで日本の現状を学び、開発途上国における10円の価値を知った生徒からは、「10円を大切にしたい」などの感想が聞かれました。

三学期は、2年生が3日間の職場体験、1年生が職業講話に取り組み、働く意義、社会への感謝・貢献、生きる意欲について考え、学びました。

生徒たちは、こうした金融教育研究校としての活動を通じて、賢く健全に生きるための知識の大切さ、お金の価値、家族への感謝の気持ちを強く意識するようになりました。



桜馬場中学校



大運動会